

頭陀袋

(69) 平成三十年三月号

発行 中山かんのん

恩林寺



人間関係とは難しいものです。おとのの教科書という本の一節にこんなことが書いてありました

* よわいものをいじめるな

人として恥すべき事やつてはいけないことが数多くある中、卑怯な振る舞いを嫌つたのが薩摩武士である。

今年は西郷どんがテレビで活躍しているが、薩摩には「郷中」(ごうちゅう)という教育組織があつた

町内ごとにある縦割りの若者組のようなもので、男子が六歳になるとここに通つて武芸や学問にはげみ、武士として心得を厳しく教えこまれた。

いくつかある基本的な戒律の中でも、正々堂々とふるまうこと重んじた。いかにも薩摩らしい教えがこれだ。

「弱いものをいじめるな」

「いじめ」が卑怯な行為であることは誰もが知っている。それでも行わられるのは単純明快なこの教えを小さいころからたたきこまれていないからではないのか。理屈抜き、問答無用で守るべきこともあらはずだ。

* 冗談のつもりでも人の欠点を口にするな。

なにかの長所があればどこかに短所がある。て抜群に優れている人はいないだろう。

そして自分自身の悪いところは認識していないのに他人の悪いところは目につきやすいのが人間というものだ。

そこで仲の良い人にはつい、冗談のつもりで「あんたのこんなところがダメなのね。」なんて、口が滑つてしまつ。そのなにげない一言が大げんかに繋がるかもしれない。こうしたことはぜつたいに慎むべき。と、家訓で諭したのが北条重時である。「戯れでもひとの欠点を口にしてはならない。自分でひどい欠点を口にしても、言われた本人は恥ずかしいため過ちが起ころう。冗談を言うのなら人がうれしくなることを言うべきだ。」

欠点を指摘されると、人は必ず傷つくから十分注意しよう。いつか仕返しをしてやろう。」と、思われるかもしれない。

* ご案内

三月十八日午前十一時

** 春の彼岸会、永代祠堂総回向(永代経法

要。)

法要後、法話、斎座(昼食)があります。

お参りくださる方、三月十五日ころまでにお寺へお知らせ下さい。

(余談) 頭陀袋(恩林寺寺報)は次回七十号を迎えます。当初、小さい寺の小さなつぶやき、と思ってスタートしました。

部数、二十五部、この六年近くの間に十倍の配布先となりました。ご支援感謝申し

見た目から性格、頭の出来具合まですべ